

ミュージアムと障害のある人をつなぐ《中間支援》を紐解く オンラインイベント 「みんミ シンポジウム」と「みんミの“わ”」を連続開催

NPO 法人エイブル・アート・ジャパンは、2026 年 2 月 15 日（日）、27 日（金）に、ミュージアムと障害のある人を結ぶ《中間支援》を紐解くオンラインイベント「みんミシンポジウム 2025 つながりをつくる中間支援」と、冊子『みんなでミュージアムーミュージアムと障害のある人をつなぐハンドブック』を紹介するオンラインプログラム「みんミの“わ” “6つの視点”から考える、みんなでつくるミュージアムアクセス」を開催いたします。



「みんミ」は、美術館や博物館に行きづらいと感じる人が、もっと自由にミュージアム※にアクセスできること、どんな人も、より豊かなミュージアム体験ができること、その仕組みや方法をみんなで学び合い、考えていくプロジェクト「みんなでミュージアム」のこと。今回のオンラインイベントでは、第一線の実践者をお招きして中間支援の役割とこれからの探る「みんミ シンポジウム」と、ハンドブックを手がかりにだれもがミュージアムを楽しむための視点を語り合うプログラム「みんミのわ」の2つのコンテンツで、障害のある人がミュージアムを自由に楽しむための《中間支援》を紐解き、広くさまざまな人と共有していきます。

障害がある人への合理的配慮を義務化する「改正障害者差別解消法」が2024年4月に施行されてからもうすぐ2年一、各地ではさまざまな試みがなされ、模索されています。これらを背景に、本プログラムでは多様な視点から共生社会への実現に向けたヒントを探っていきます。

※ミュージアム（博物館）：美術館をはじめ資料館、科学館、動物園、水族館など資料の収集や保管、展示を行う施設。歴史、芸術、民俗、産業、自然科学などさまざまな分野を含みます。

【開催概要】

1 2026 年 2 月 15 日（日） 14:00～17:00

みんミシンポジウム つながりをつくる中間支援——ひと・地域・ミュージアムをむすぶ“あいだ”の力

2 2026 年 2 月 27 日（金） 18:00～20:00

みんミの“わ” “6つの視点”から考える、みんなでつくるミュージアムアクセス ——ハンドブック『みんなでミュージアム』をご紹介します！

開催形式：オンライン（Zoom）

参加費無料 要申込 ※詳細はウェブサイトをご覧ください

情報保障支援：手話通訳、文字情報保障つき

ウェブサイト <https://minmi.ableart.org>

お問い合わせ：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン 03-6277- 2802 accessart@ableart.org

主催：文化庁、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン 文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

広報のお問合せ：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン 担当：鹿島、稲邊 03-6277- 2802 accessart@ableart.org

本資料に使用の写真は <https://x.gd/zPwDs> よりダウンロードいただけます

背景／対象

共生社会を実現するために、2024年に「改正障害者差別解消法」が施行されましたが、まだ課題があります。

「障害のある方が美術館に行けることが少ない」「ミュージアムに行く手段がない」などの課題を背景に、美術館／博物館だけでは、人員の確保が厳しく機能できないことや、障害のある人がどこに不便を感じるのか分かりづらい、といった課題もあります。

「みんなでミュージアム（みんミ）」では、障害のある人やその支援者とミュージアムをつなぐ“中間支援”として、双方の声を聞き合いながらアクセスしやすい環境づくりやミュージアムを楽しむ鑑賞サポートを実践してきました。本プログラムでは、その実践から生まれた工夫やヒントを共有するのみならず、各地で進む同様の取り組みから広がる可能性についても考え、だれもが気軽にミュージアムに足を運べる未来を参加者とともに描いていきます。

本プログラムはこのような方におすすめします

- 1 ミュージアムのアクセシビリティ向上に取り組んでいる方
- 2 障害者とミュージアムを結ぶ中間支援に興味をお持ちの方
- 3 障害者とミュージアムを楽しみたい家族、ご友人
- 4 障害のある人の文化芸術活動を支援している方
- 5 障害のあるひととミュージアムを楽しみたい家族、ご友人、市民
インクルーシブな文化環境づくりに関心のある自治体・NPO・市民団体の方 など



2月15日（日）みんミシンポジウム 2025

つながりをつくる中間支援——ひと・地域・ミュージアムをむすぶ“あいだ”の力

本シンポジウムではミュージアム教育とアクセシビリティ研究の両面から現場を支える国立アートリサーチセンター研究員・鈴木智香子氏、アートと地域のコミュニケーションをつなぎ続けている「はじまりの美術館」（福島）の大政愛氏、そして福岡を拠点に障害のある人の表現を社会へ届ける仕組みづくりを推進してきた九州障害者アートサポートセンターの樋口龍二氏に具体的な事例をご紹介いただくことで、第一線者の発表を元に学びの場を創出します。



【当日の流れ】

1. 話題提起：柴崎由美子（NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表理事）
2. ミュージアムと中間支援の連携の事例共有：
ミュージアムと障害のある人をつなぐ実践を手がかりに「中間支援」の現在地をさまざまな角度から紹介。
登壇者：
 - ・鈴木智香子（独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター研究員）
 - ・大政 愛（はじまりの美術館学芸員）
 - ・樋口 龍二（九州障害者アートサポートセンター長）
3. 対話と思いを共有する時間

※2026年1月19日時点

2月27日（金）みんなの“わ”～"6つの視点"から考える、みんなで作るミュージアムアクセス～

みんなの“わ”は、障害のある人や支援者、ミュージアム関係者、そしてミュージアムが好きな市民が集まり、アクセシビリティについて気軽に学び合うオンラインの交流プログラムです。今回は、みんなが制作を進めてきた冊子『みんなでミュージアムーミュージアムと障害のある人をつなぐハンドブック』を紹介します。みんながこれまで積み重ねてきた実践から得た“6つの視点”を軸に、障害のある人とミュージアムをつなぐためのポイントをまとめた一冊です。小規模館でも取り組める工夫や、障害のある人と協働する際のヒントなどを盛り込みました。制作のこだわりは、「ほかの活動にも活かせる手引き書」であること。どのようなステップを経てイベントをつくってきたのか、準備の過程も紹介する構成に仕上がっています。

制作背景やねらい、構成、実践のポイントまで、執筆者であるみんなメンバーが解説し、後半は小さなグループでゆるやかに話します。



2月15日（日）開催「みんなシンポジウム」登壇者プロフィール



鈴木智香子（すずき ちかこ）

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター研究員

2009 年武蔵野美術大学絵画科版画専攻卒業、2011 年東京造形大学大学院美術研究領域版画コース修了。神奈川県立近代美術館でのインターン研修、目黒区美術館でのボランティア活動をきっかけに、美術館教育の道を歩み始める。神奈川県立近代美術館での勤務を経て、2015 年より東京藝術大学美術学部特任助手に着任、上野公園の9つの文化施設を連携するラーニングデザインプロジェクト「Museum Start あいうえの」にプログラムオフィサーとして携わる。2022 年より現職。共著に『こどもと大人のためのミュージアム思考』（左右社、2022 年）がある。

<https://ncar.artmuseums.go.jp>



大政 愛（おおまさ あい）

はじまりの美術館 学芸員

筑波大学芸術専門学群卒業、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。2016 年より現職。アートとコミュニケーション、そして居場所づくりを活動の軸とし、はじまりの美術館では主に展覧会の企画・運営、広報、相談業務などを担当。これまでに「あなたが感じていることと、わたしが感じていることは、ちがうかもしれない」（2017 年）、「ぐるぐるまわってみる」（2025 年）などの展覧会を企画。また『はじまりの美術館——社会福祉法人が手さぐる地域とアート』（はじまりの美術館編著、左右社、2025 年）などの書籍にも携わる。アートミーツケア学会理事。

<https://hajimari-ac.com/>



樋口 龍二（ひぐち・りゅうじ）

九州障害者アートサポートセンター長、FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）代表理事、NPO 法人まる代表理事。

1974 年生まれ。1998 年、「工房まる」と出会い、障がいのある人たちの感性に魅了され転職。2007 年に「NPO 法人まる」設立と同時に代表理事就任。2000 年「FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）」、2015 年「株式会社ふくしごと」、2018 年「九州障がい者アートサポートセンター」を設立し、九州・福岡を中心に、障がいのある人たちの表現を社会にアウトプットする企画運営、表現活動をサポートする人材育成としてセミナーやワークショップ等も各地で開催している。2014 年、NPO 法人まるが「第 22 回福岡県文化賞（社会部門）」を受賞。

<https://kda-support.org/>

主催者関連イベント

アトリエ・ポレポレ 30 周年祝

誰もが自分らしくいられる〈オープンアトリエ〉〜ひらき、ともに生きる〜



30年の実践から見える、ともに生きるかたち。

障害の有無や年齢、国籍に関わらず、誰もが自由に絵を描き、表現できる「アトリエ・ポレポレ」の 30 周年を記念したフォーラムを開催。一人ひとりの「自分らしさ」を大切にし、技術や、既成概念にとらわれない創作の時間と空間を育んできた「アトリエ・ポレポレ」の活動を振り返りながら、コミュニティの魅力を共有し、市民活動のモデルとしての可能性をお話します。

2026 年 2 月 23 日（月・祝）

14:00～16:00（13:30 開場）

会場：SHIBAURA HOUSE（東京都港区芝浦 3 丁目 15-4）

参加無料／要申込（先着順 60 名） 手話通訳・文字通訳あり

その他詳細：<https://www.ableart.org/>

※手話通訳をご希望の方は 2 月 15 日（日）までにお申し込みください。

申込フォーム：<https://forms.gle/cGPxKKHv9h9tFij3A>

主催 NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

共催 アトリエ・ポレポレ

助成 令和 7 年度港区 NPO 活動助成事業